

【枕草子】

【】(四月のつこもり)

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

(a) 四月のつこもり、五月のついたちのころほひ、^{たか}梅の葉の濃く青きた、花のいと白う咲きたるが、雨うち降りたるつとめてなどは、世になづ(b) 心あるさまにをかし。花のなかより^{かみ}黄金の玉かと見えていみじうあざやかに見えたるなど、朝露にぬれたる朝ぼけの(c) 桜におとす。ほととぎすのよすがとみ入思入はたや、(d) なほおとにいふべしもある。

(枕草子)

問一 (a) 「四月のつこもり、五月のついたちのころほひ」とは、どのころにあたるか。次のア～エから選び、記号で答えよ。

- ア 仲春から晩春に移ってゆくころ
- イ 晩春から初夏に移ってゆくころ
- ウ 初夏から盛夏に移ってゆくころ
- エ 盛夏から晩夏に移ってゆくころ

問二 (b) 「心ある」の意味として最もよいものを、次のア～エから選べ。

- ア 風情がある
- イ 人情が深い
- ウ 道理がわかる
- エ 誠意がある

問三 (c) 「桜におとす。」の解釈として最も適当なものを、次のア～エから選べ。

- ア 桜よりもはるかにすばらしい。
- イ 桜と同じくらいすばらしい。
- ウ 桜のほうがいっせいにすばしい。
- エ 桜に比べてもおとすはぬ。

問四 (d)「」なほはびていふ入もあひす。「もつな」とも言ひやうまなほだ。とあるが、言ひやうまなほはどのみで
あるといふのか。その気持ちを表すのにふはわしい形容詞を、文章中から抜き出せ。

(口E)

「解答」

問一 ウ

問二 ア

問三 イ

問四 をかし